

教育目標		未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成～地域・家庭とのつながりによるレジリエントな学校を目指して～								
学校教育目標		未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによるレジリエントな学校を目指して～								
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価		
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 「豊かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進 「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施 「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①授業力向上を目指した授業改善の校内研修会を実施する。	①研究テーマを踏まえた授業実践を行う。積極的に授業改善に向けて話し合いの場を設定する。教職員対象に、研究主体に沿った授業改善にかかるアンケートを実施する。	①生徒質問「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答を75%以上にする。 図書では、読書に関する質問(生徒質問7、保護者質問5)の肯定的回答を75%以上にする。	①生徒質問「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答が76%で目標を達成することができた。 ②「学習の成果を適切に評価している」(生徒質問9、保護者質問6)の肯定的回答が85%以上にする。 ③HPの充実、表示回数月平均300以上にする。学校通信20号以上発行する。積極的に情報を発信することができた。 ④「学習の成果を適切に評価している」(生徒質問9、保護者質問6)の肯定的回答が90%、保護者が93%で目標を達成することができた。 ⑤ホームページの月平均の表示回数は3629回、学校通信は30号(2月下旬)を発行し、積極的に情報を発信することができた。 地域のボランティア活動では、スプリングフェスティバル、盆踊り大会、餅つき大会等に多くの生徒が参加することができた。	B	①生徒質問「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答が76%で目標を達成することができた。 ②「学習の成果を適切に評価している」(生徒質問9、保護者質問6)の肯定的回答が85%以上にする。 ③HPの充実、表示回数月平均300以上にする。学校通信20号以上発行する。積極的に情報を発信することができた。 ④「学習の成果を適切に評価している」(生徒質問9、保護者質問6)の肯定的回答が90%、保護者が93%で目標を達成することができた。 ⑤ホームページの月平均の表示回数は3629回、学校通信は30号(2月下旬)を発行し、積極的に情報を発信することができた。 地域のボランティア活動では、スプリングフェスティバル、盆踊り大会、餅つき大会等に多くの生徒が参加することができた。	①今後も主体的に学ぶ生徒の育成について、授業改善を行っていく。図書では、授業等を通じて図書館の利用機会を増やし、読んだ本を活用して、発表する機会を設ける。 ②每学期学習の手引きを発行する際に、計画している教育活動と評価基準が合致しているか点検を行う。 ③家庭や地域との連携を、より一層充実させ、効果的な教育活動を展開する。引き続き、ホームページや学校通信、GoogleclassroomやschoolTakt等を活用し、本校の情報を積極的に発信する。	①講義型の授業からグループ活動や少人数での学習、ICTの活用等、授業改善が推進されつつある。ただ、講義型の授業を脱却したとは言えない。 ②一人ひとりへの適切な評価について、研修を深めていかなければならない。 ③地域との連携やボランティア活動等をさらに充実させるため、教員が松崎中学校区のことを、もっと学べる機会を増やす必要がある。	
		新しい時代に対応した教育の推進	ICT機器の活用能力の向上を目指し、デジタル社会を見据えた教育を推進する。	ICTやデジタル教材を活用して、生徒の興味・関心を高め、学びを深める授業づくりに努める。また、主体的に学ぶ場面を増し、個別最適な学びや協働的な学びの質を向上させる。	生徒質問「先生は、教え方いろいろな工夫している。」の肯定的回答が90%以上、保護者質問「先生は生徒の学力向上のために、授業の工夫などに努めている。」の肯定的回答を80%以上にする。	B	生徒質問「先生は、教え方いろいろな工夫している。」の肯定的回答が92%で目標を達成することができたが、保護者質問「先生は生徒の学力向上のために、授業の工夫などに努めている。」の肯定的回答が77%にとどまり、目標を達成することができなかった。	学校生活を充実させるためのツールとしてICT活用を増やす。また、効果的にICTが利用できるよう、授業の質を向上させる。	ICTを活用し、個々に応じた課題に取り組む場面が増えてきた。ICTを使うことが目的にならないように、興味関心が高められるような授業をつくる必要がある。	
		「豊かな心」の育成	①「考え、議論する道徳」及び「心の教育」を推進する。 ②いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ③不登校の予防に努める。 ④体験活動等を通じて、生徒の主体性を育成する。	①毎週、人権道徳部会を実施し、授業内容やローテーション道徳等、授業改善について検討する。 ②毎週、生徒指導委員会を実施し、情報共有や対応について検討する。 ③「心の居場所」となる学校づくりに努める。 ④適宜、行事検討委員会を実施し、新しい行事についても検討を行った。	①生徒質問「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている。」の肯定的回答を80%以上にする。 ②生徒質問「先生は生徒の悩みや不安に対して相談のしてくれる。」の肯定的回答を80%以上にする。 ③生徒質問「学校へ行くのが楽しい」、保護者質問「子どもは、楽しく学校生活を送っている。」の肯定的回答をそれぞれ80%以上にする。 ④生徒質問「学校行事(体育大会、宿泊行事、トライやるなど)は楽しい。」の肯定的回答を90%以上にする。	B	①生徒質問「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている。」の肯定的回答が91%で目標を達成することができた。 ②生徒質問「先生は生徒の悩みや不安に対して相談のしてくれる。」の肯定的回答が87%で目標を達成することができた。 ③生徒質問「学校へ行くのが楽しい」、保護者質問「子どもは、楽しく学校生活を送っている。」の肯定的回答が89%で目標を達成することができた。 ④生徒質問「学校行事(体育大会、宿泊行事、トライやるなど)は楽しい。」の肯定的回答が91%で目標を達成することができた。	①道徳教育推進教師を中心として、道徳教育を推進し、すべての教育活動を通して、思いやりの心を育む。 ②生徒一人ひとりの良さを認め、温かい声かけを増やし、生徒の自尊心を高めた魅力ある学校づくりに取り組む。 ③校内の体制を充実させ、関係機関とも連携を深め、不登校の未然防止を図る。また、学校へ行くのが楽しいと思える活動を増やす。 ④生徒が主体となって取り組める行事を地域と連携し、積極的に実施していく。	①他人への思いやりや自己肯定感を高められるような行事を増やすことが求められている。 ②自尊心を含め、人間力を高めることが大切である。相談しやすい環境の充実させる必要がある。 ③より一層家庭と連携していくことが必要になってきている。 ④生徒が主体的に体験できる活動を増やすためにも、行事の見直しが必要である。	
		「健やかな体」の育成	発達段階に応じた生徒の体力向上の促進	保健だより等を通して、就寝時間や、起床時間の朝食等の健康管理について家庭への連携を図る。また、校医、栄養教諭との連携に努める。	生徒質問「学校は、早寝・早起き朝食をとるなど、規則正しい生活を心がけるように呼びかけている。」と保護者質問「学校は健康管理について保健だよりなどで保護者に伝えていく。」の肯定的回答を80%以上にする。	B	生徒質問「学校は、早寝・早起き朝食をとるなど、規則正しい生活を心がけるように呼びかけている。」の肯定的回答が91%、保護者質問「学校は健康管理について保健だよりなどで保護者に伝えていく。」の肯定的回答が95%で、目標を達成することができた。	「起床時間・就寝時間・朝食の摂取の有無」をふりかえる帳で確認する。また、あちからゆるい生活習慣に、規則正しい生活習慣に対する意識づけを行う。さらに、引き続きお便り等で、「早寝・早起き・朝食をとる」の啓発活動を行う。	健やかな体を育成するためには、学校だけでは限界があり、家庭での指導が大切である。特に、「早寝・早起・朝ご飯」は、家庭との連携が重要である。	
		教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	自ら未来を切り拓ける力を養い、進路選択等を支援し、教育相談を充実させる。	個々の能力・適正・実態を踏まえた進路指導を行う。教師間の情報交換、情報共有を密に行う。すべての教育活動を通じて、生徒の自尊心、自己有用感の醸成に努める。	生徒質問「学校は将来の進路について、正しい情報提供や指導をしてくれる」と保護者質問「学校は保護者に進路についての情報を知らせている。」の肯定的回答を80%以上にする。	B	生徒質問「学校は将来の進路について、正しい情報提供や指導をしてくれる」と保護者質問「学校は保護者に進路についての情報を知らせている。」の肯定的回答が87%で、目標を達成することができた。	キャリアパスポートを積極的に活用し、自己理解・自己管理能力や課題解決力等を育成していく。また、より深く生徒との信頼関係を構築できるように努める。	学校での学習が、仕事につながると思っっている生徒が多い。デジタル化が進み、これからの時代に求められる力を主体的に身に付ける必要がある。
		特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	特別支援教育の充実を図る。	定期的に教育支援委員会を実施し、支援の必要な生徒の実態把握や支援方法の検討を行う。巡回相談やコンサルテーション等を活用し、生徒に適切な支援を行う。	教師質問「学校は特別支援教育については、特別支援コーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」の肯定的回答を90%以上にする。	A	教師質問「学校は特別支援教育については、特別支援コーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」の肯定的回答が100%で、目標を達成することができた。	学年会と教育支援委員会が連携し、個々に応じた支援について、積極的に協議する。	今後も多様なニーズが求められることから、より一層充実した特別支援教育を行っていく必要がある。
		教職員の資質向上	①研修等の充実	研修等を充実させる。	校内研修会や夏季研修会、自主教員研修(フナ研)、LGBTQや道徳等の研修会の充実を図る。また、教職員研修管理システムを活用する。	教職員研修管理システムにおいて、教師1人平均3回以上の研修を受ける。	B	教職員研修管理システムにおいて、教師1人平均3.1回の研修を受けることができ、目標を達成することができた。	今後も教師の資質向上に向け、積極的に研修会に参加するとともに、校内研修会を工夫していく。	これからの時代に求められる力を生徒たちが身につけるため、授業の質を向上させる必要がある。
		教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築 ①防犯訓練・防災教育の充実 ②安全・安心な教育環境の充実 ③子どもの交通安全対策の充実を図る。 ④学校施設の整備体制を整え、維持保全に努める。 ⑤学校における働き方改革の推進	①コミュニティ・スクールの充実を図る。	①学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実を図る。 ②積極的に学校の情報を地域に発信し、生徒、保護者、地域の理解を深める。	①学校運営協議会を年3回開催し、熟議を重ねる。 ②教師質問「学校は保護者や地域の人たちへの積極的な学校(授業・行事)公開に努めている。」の肯定的回答を90%以上にする。	B	①学校運営協議会を3回開催することができ、熟議することができた。 ②教師質問「学校は保護者や地域の人たちへの積極的な学校(授業・行事)公開に努めている。」の肯定的回答が97%で、目標を達成することができた。	①学力向上、不登校対策、働き方改革等について熟議を進める。 ②地域との交流・連携を充実させ、地域の教育力を有効に活用していく。	①それぞれの委員から様々な意見をいただき、熟議することができた。 ②地域と学校の連携・協働もコロナ禍前に戻りつつある。
				①防犯訓練・防災教育の充実	①危機管理マニュアル等を活用し、的確な防災教育を実施する。 ②安全・安心な教育活動の充実を図る。 ③子どもの交通安全対策の充実を図る。	①防犯や災害が発生した際の対応を身に付けるため、年2回の防災訓練を実施する。 ②夏場は、WBGTを毎日計測し、活動の内容を検討する。 ③保護者質問「子どもは安全ルールや自転車のマナーを守って生活している。」の肯定的回答を90%以上にする。	B	①年2回防災訓練を実施することができ、万が一のときのために備えることができた。 ②夏場にWBGTを毎日計測し、熱中症対策を徹底することができた。 ③保護者質問「子どもは安全ルールや自転車のマナーを守って生活している。」の肯定的回答が95%で、目標を達成することができた。	①危機管理対応マニュアルを見直し、学校の防犯・防災の体制を充実させる。 ②今後も、熱中症と感染症対策を検討していく。 ③毎年行っている自転車交通安全教室や交通安全の啓発を積極的に行う。	①いつどこで災害が発生するか分からないことを意識し、日頃から危機管理意識を高める必要がある。 ②安全・安心に教育活動を行うために、今後も対策を検討すべきである。 ③自転車を乗車する際のヘルメット着用を推進する必要がある。
				④学校施設の整備体制を整え、維持保全に努める。 ⑤学校における働き方改革の推進	④毎月、安全点検を実施し、技能と連携し、修理・修繕を行う。 ⑤それぞれの業務の目的、計画を確認し、見直しをもった取組を行う。	④保護者質問「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている。」の肯定的回答を90%以上にする。 ⑤教員超過勤務時間60時間以上の職員10%削減する。教師質問「仕事の担当が適切で、職員集団として適切に機能している。」の肯定的回答を70%以上にする。	B	④保護者質問「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている。」の肯定的回答が87%で、目標を達成することができた。 ⑤超過勤務月平均60時間の職員はR4年度は25名、R5年度は20名である。目標は達成したが、偏りがある。教師質問「仕事の担当が適切で、職員集団として適切に機能している。」の肯定的回答は74%であり、目標を達成することができた。	④校舎の老朽化が課題となり、雨漏り等も改善しなくてはならない。定期点検を重ね、修理・修繕に努める。 ⑤各行事の意義目的を再確認し、重点化した取組を進めるなど、見直し、精選が必要である。	④安全・安心な教育環境は、とても重要なことである。 ⑤教師の心身共に健康な姿が生徒たちの学校生活にも大きく影響するため、ワークライフバランスが非常に大事である。

学校関係者評価総括
 ・校則改定したことにより、生徒たちが主体的に物事を判断する機会が増えた。
 ・自分で責任をもって判断、行動できる生徒を育成するためにも、教師一人ひとりがアップデートすることが必要である。
 ・これからの時代に求められる力を生徒たちが身につけるため、授業の質を向上させることが重要である。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・今後も、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現にむけ、授業改善を行っていかなくてはならない。
 ・生徒一人ひとりが、松崎中学校を「自分の居場所」と感じられるような教育活動を展開していく必要がある。
 ・教師が個々の生徒に応じた支援を丁寧に行い、多様なニーズに丁寧に対応することが重要である。